

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

# 専門研修プログラム 募集案内



公立大学法人

福島県立医科大学附属病院

Fukushima Medical University Hospital

<https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/>





専門医研修管理委員会委員長  
(福島県立医科大学附属病院長)

竹石 恭知

当院の専門医研修においては、19ある全ての基本領域で基幹施設としてプログラムを運用しており、全ての基本領域で専門医の資格を取得することが可能です。また、各プログラムでは、当院のほか、県内外の連携施設等と密に連携して研修を行うため、指導体制や専門医取得に必要な症例数の面でも充実した研修環境が整っており、基本領域に加えてサブスペシャリティ領域についても、各人にとって最適な研修計画を策定し、迅速に専門医資格が取得出来るよう配慮されています。

さらに、専攻医は、大学院・大学院研究生の併願が可能のため、医師として勤務しながら、多くの専攻医が医学博士号 (PhD) を並行して取得しています。

当院には、最適な研修プログラム、充実した施設・研修環境、優れた研究環境、優しく親身にサポートしてくれる先輩達が揃っており、自身の望むキャリアパスが創造できます。出身大学に関係なく、個々の目標達成に向けて、スタッフ一同が全面的に支援しますので、多くの方に安心して当院での専門医研修を選択していただき、専門研修プログラムにより目標とする専門医資格を着実に取得され、活躍されることを期待しています。

病院案内

病院の特徴

健康を支え、心温まる医療を実践

当院は、医科大学附属の総合病院として、39診療科・778床の施設を有し、先進医療の充実や診療体制の整備に努めております。こうした中、1日の平均入院患者数579名(令和5年度)、1日の平均外来患者数は、1,531名(令和5年度・入院中外来受診者を除く)を数え、県民の皆さまに広く利用されております。附属病院ではこれからも地域を照らし、多様化する医療に対する県民の皆さまの期待に応えてまいります。

診療科目

循環器内科/血液内科/消化器内科/リウマチ膠原病内科/腎臓・高血圧内科/糖尿病・内分泌代謝内科/脳神経内科/呼吸器内科/漢方内科/甲状腺・内分泌内科/腫瘍内科/総合内科/呼吸器外科/消化管外科/肝胆膵・移植外科/乳腺外科/小児外科/甲状腺・内分泌外科/脳神経外科/整形外科/心臓血管外科/形成外科/産科、婦人科/小児科/小児腫瘍内科/眼科/皮膚科/泌尿器科・副腎内分泌外科/耳鼻咽喉科・頭頸部外科/心身医療科/放射線科/放射線治療科/核医学科/麻酔・疼痛緩和科/病理診断科/歯科口腔外科/救急科/リハビリテーション科

【常勤医師数】 377名(令和6年4月1日現在)	【一日平均入院患者数】 579件(令和5年度)	【一日平均外来患者数】 1,531件(令和5年)
【救急車搬入患者数】 2,452名(令和5年)	【救急外来患者数】 7,954件(令和5年)	【手術件数】 6,957件(令和5年)

Topics

福島で経験しませんか?

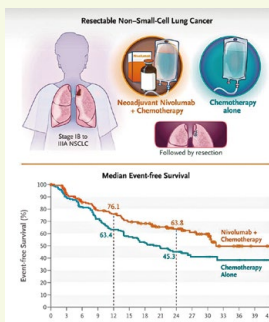
腫瘍免疫と低侵襲手術

呼吸器外科では胸部の悪性腫瘍(肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍など)に対する治療を主に行っています。手術はもちろんのこと、薬物療法や基礎的な研究も積極的に行っています。当科では、もともと腫瘍免疫に関する基礎研究が行われていることもあり、最近、肺がんのみならず様々な癌腫の薬物療法の新たな柱として使用されるようになった免疫チェックポイント阻害薬による治療や研究も積極的に行っています。また、当科も参加した国際共同治験の結果から(図1)進行肺がんに対する、術前治療として、従来の薬物療法に、免疫チェックポイント阻害薬を追加した薬物療法後に、手術を行うという最新の治療を積極的に進めています。

手術に関して、当科では低侵襲な手術を目指しており、当科で行われている約8割の手術が鏡視下で行われています。特に最近では、ロボット支援下手術(いわゆるダビンチによる手術)が導入され、従来の胸腔鏡手術件数を超えています。加えて、ロボット支援下手術の導入によって、今まで、肋骨の切離を要する標準開胸で行う必要があった複雑な手術が、低侵襲で行えるようになりました。また、従来、胸骨正中切開で行っていた縦隔腫瘍の手術でも、周囲臓器の合併切除を要する拡大手術を除いてほぼ全例でロボットを用いて行えるようになり、患者さんの術後の負担が軽減されています(図2)。

このように当科では、胸部の悪性腫瘍に対する治療として最新のロボットを使用した手術から最先端の薬物療法まで幅広く経験を積むことが可能です。みなさん、よかったら、私達とともに、胸部悪性腫瘍の最新の治療に携わり、福島から世界に発信していきませんか?

【図1】



【図1】当科も参加した国際共同治験 (CheckMate 816 Clinical Trials) この試験の結果から、進行肺がんに対して術前に従来の化学療法に免疫チェックポイント阻害薬を上乗せすることが標準治療の一つとなり当科でも現在積極的に行われています。

【図2】



a) 肺がんに対するロボット手術  
b) 縦隔腫瘍に対するロボット手術

【図2】ロボット支援下手術の様子。ロボット支援下手術は、従来の開胸手術や胸腔鏡手術に比べても患者さんの術後の負担がとも軽減されています。

呼吸器外科学講座 主任教授 鈴木 弘行

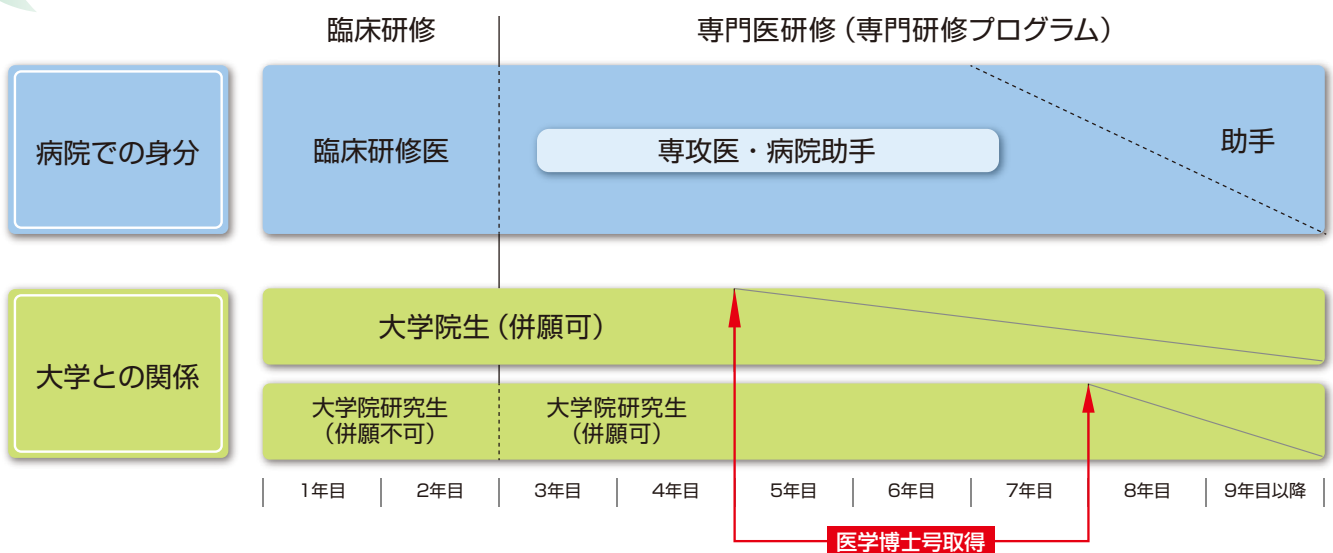
## 専門研修プログラムの特徴

Fukushima Medical University Hospital

- 1 19ある全ての基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを運用しています。
- 2 希望する専門医資格が取得できるよう、基本領域の各プログラム責任者等と相談の上、最適な研修計画に基づき研修を行います。
- 3 専門医資格取得に必要な症例・症候等を確保するため、当院と連携施設で研修を行います。連携施設は原則各学会の認定施設です。
- 4 大学院・大学院研究生の併願が可能であるため、医師として働きながら、大学院教育を受けることで、より充実した専門医研修が可能です。多くの専攻医が医学博士号(PhD)を並行して取得しています。
- 5 医師のキャリアを見据えた幅広い一貫した教育を支援していきます。

## 当院の研修制度の全体像

Fukushima Medical University Hospital



## Message

### より高いレベルの専門医を目指したい

私は福島県立医科大学を卒業後は福島県外の市中病院で2年間の臨床研修を終え、専攻医としてまた福島に戻ってきました。複数の大学の医局説明会にも参加し、専門医研修をどこで学ぶかいろいろ比較し考えた結果、最終的に本学の外科プログラムに最も魅力を感じ入局しました。



当院の外科の場合は、専門医研修の3年間を修了した後、各専門分野に入局する形になるため、自分の進みたい領域を考える時間が十分にあります。また最初の1年間は大学病院で全ての外科(甲状腺・乳腺・心臓血管・消化管・呼吸器・小児・肝胆膵・移植)をローテーションする機会を頂けるため、専門医を取得するために必要な症例を集めながら、網羅的な知識と経験を積むことができ、実際日々の診療や外来で非常に役立ちます。

上級医の先生も経験豊富な頼れる先生ばかりで指導も手厚く、レベルの高い指導を受けることができ、病棟・外来・手術と実臨床の現場で少しずつレベルアップしていくのを日々実感しています。

さらに専攻医として専門医を目指しつつ、並行して大学院に入学し、学位取得を目指すことが可能なのも本大学の専門医研修プログラムの魅力の1つです。私も学生時代からMD-PhD生として研究に関わらせて頂いており、現在は専攻医をしながら、大学院生として研究もしています。臨床だけでなく研究分野でも活躍されている先生もたくさんいらっしゃるの、学ぶことも多いです。

外科に限らず、専攻医として福島県立医科大学に来て頂ければ、どの科でも大歓迎されるかと思います。まずは見学だけでも来て頂ければ、どのような点が良いか話しを聞けたり、雰囲気を知るかと思うので、迷われている方はぜひ一度来てみてはいかがでしょうか。みなさんと福島で一緒に働ける日を心よりお待ちしております。

専攻医1年次(外科) 鈴木 喜貴



### 大学院アドミッションポリシー

本医学研究科医学専攻では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、共に新しい医学を創造し、社会に貢献する次のような学生を求めています。

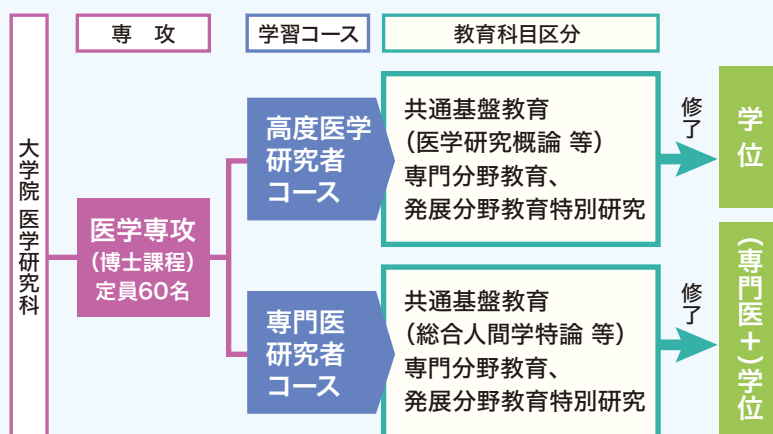
- ① 医学・医療に関する高度な専門的知識・技術の修得を目指す人
- ② 新たな分野に踏み込み、先駆的な研究活動を志す人
- ③ 地域の医学・医療水準の向上を目指し、指導的な役割を担おうとする人
- ④ 大学・研究機関の指導者、研究者として活躍する意欲を持つ人
- ⑤ 医学・医療の分野で、世界に飛躍しようとする熱意を持つ人

### 大学院医学研究科の概要

大学院医学研究科は、医学・医療の発展に自立して寄与することができる研究者及び専門職者を育成するとともに、新しい医学の創造を行うことを目的とします。

先進的で高度な医療を実践できる医療人やこれらの医学・医療をリードする研究者を養成・確保しながら、優れた研究成果を県民医療に還元し、本県医療水準の向上と県民の健康増進に一層寄与できるように、基礎医学と臨床医学の壁を越えた総合的・学際的な教育研究を推進します。

#### 医学研究科の構成(医学専攻)



### 医学専攻(博士課程)の概要 修業年数4年

本専攻では、医学部を卒業した学生を中心に、医学部以外からの学生にも広く門戸を開放して医学を極めることを目的とすることから、専攻の名称を「医学専攻」(Graduate School of Medicine)とし、学位に付与する専攻分野も「医学」とします。

本専攻に入学する学生は、入学時点で、高度医学研究者コースと専門医研究者コースのいずれかを選択します。

前者のコースは、医学研究者になることを目標とし、将来の医学を支え、新たな医学の創造ができるような人材の育成を目的とします。後者のコースでは、臨床研修を終え、専門医研修を受ける学生を主な対象として、高度で専門的な臨床能力と、医療の現場から研究する能力を兼ね備えた臨床医を育成することを目的とし、そのために必要な科目を整備しています。

### 福島で研修しませんか？

#### 大学病院で希少疾患と向き合いたい

福島県立医科大学附属病院での内科専門医研修が始まり早3ヶ月となりました。私はリウマチ膠原病内科の医局に入局し、日々内科医としての基本的知識・技能を高めつつ、サブスペシャリティとしてリウマチ・膠原病科の医師として上級医や先輩専攻医の教えを受けながら一歩ずつ確かに成長していると実感できています。リウマチ・膠原病内科は外科的な処置は少ないものの、生物学的製剤やJAK阻害薬等の発展目覚ましい薬剤を使用し、患者様のライフイベントに合わせた薬剤調整を行うなど、一生を通して患者様と向き合うことのできる魅力があります。臨床的側面だけでなく、研究面でも充実したバックアップを受けられる環境となっています。



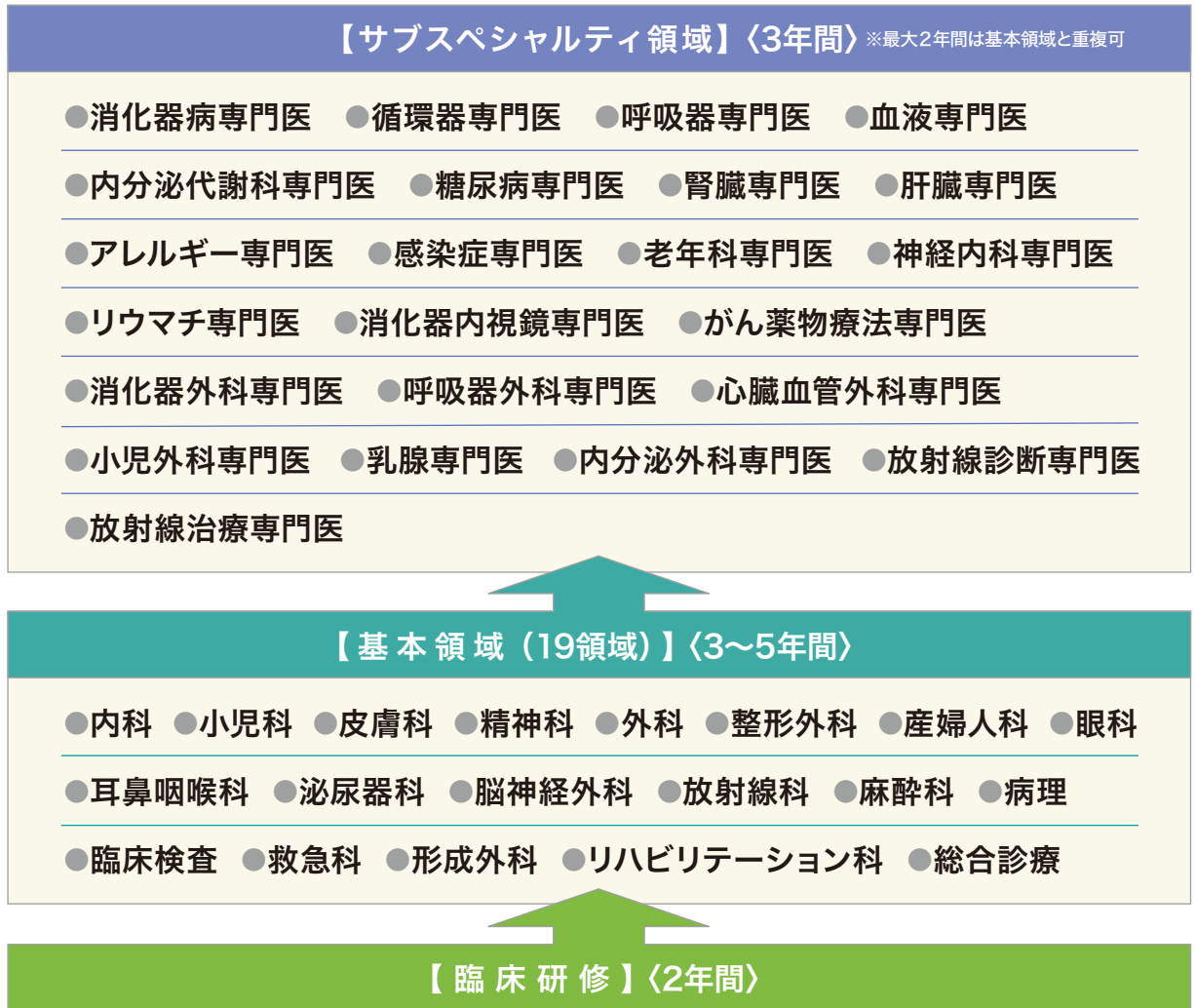
リウマチ・膠原病は希少疾患であり、当院だからこそ豊富な疾患、そして難治症例に対するアプローチの経験を積むことができます。今の経験は今後の専門医としての貴重な財産になると考えています。専攻医としての道を歩み始めたばかりですが、今の道は後悔をしたことはありません。今後とも、患者様によりよい医療を提供できるように精進していきたいと思っております。

専攻医1年次(リウマチ膠原病内科) 小川 政太郎



当院は、基本領域の全19領域及び、サブスペシャリティ領域のプログラムにおいて、基幹施設としての役割を果たし、卓越した教育環境と最先端の医療技術を提供しています。各領域の専門家による指導のもと、豊富な実践経験を通じて、次世代の医療従事者の育成に力を注いでいます。また、専攻医一人ひとりの成長を支えるため、充実したサポート体制を整えており、安心して研鑽を積むことができる環境が整っています。

※下記のサブスペシャリティ領域の専門医は、日本専門医機構が現時点で認定および公表している24領域に含まれるものです。



## 【サブスペシャリティ連動の専門医研修】

卒後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
標準タイプ			基本領域専門医研修			サブスペシャリティ専門医研修			
サブスペシャリティ連動(重点)タイプ			基本領域専門医研修						
						サブスペシャリティ専門医研修			
			基本領域専門医研修						
						サブスペシャリティ専門医研修			

基本領域とサブスペシャリティの連動

## 1 応募資格

### (1) 医師

医師法第16条の2第1項の規定による2年間の臨床研修を修了または令和6年度末までに修了見込みである者

### (2) 歯科医師

歯科医師法第16条の2第1項に規定する1年間の臨床研修を含め、2年間の歯科医師臨床研修を修了または令和6年度末までに修了見込みである者

## 2 募集人員・研修期間

各領域の専門研修プログラムが定める採用枠及び期間とします。原則として令和7年4月1日より研修を開始し、研修期間のうち1年以上は当院において研修を行います。

## 3 専攻医登録システムへの登録

当院の専門研修プログラムを選択する際には、日本専門医機構が定める期間内に、専攻を希望する基本領域学会(総合診療は日本専門医機構)のホームページを通じて、専攻医登録システムにより、希望するプログラムへの登録を必ず行ってください。

## 4 専門研修プログラムの選択

- (1) 応募者は、「専門研修プログラム基本領域一覧」から希望するプログラムを選択し、願書に記入してください。サブスペシャリティ領域については、各基本領域にて確認してください。

### 《専門研修プログラム基本領域一覧》

内科、小児科、皮膚科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリテーション科、総合診療

- (2) 各プログラム等の詳細な内容については、福島県立医科大学附属病院の臨床研修・専門医研修のホームページ([https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/training\\_program/](https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/training_program/))を参照してください。

## 5 手続

### (1) 書類提出期間

令和6年9月26日(木)から令和7年1月31日(金)まで

### (2) 提出書類

次の書類を、下記提出先へ、郵送(書留郵便)、またはご持参ください。

ア 令和7年度福島県立医科大学附属病院専門医研修願書(様式1・A4サイズ)所定欄への自署押印は必須です。

イ 履歴書(様式2・A4サイズ)(上半身写真、3×4cm、無帽、正面向き、3か月以内に撮影したものを貼付)(自署部分以外を打ち込みで作成することは可です)

ウ 医師免許証又は歯科医師免許証の写し(A4サイズに縮小し、白黒で複写すること)※当院臨床研修プログラムを修了または修了見込みの方は提出不要です。

### 【注意事項】

- 願書の氏名、生年月日は戸籍のとおり正確に記載してください。
- 署名、押印もれのないように注意してください。
- 願書に記入した内容について、書類を提出した年度末までに変更があった場合、ただちにご連絡ください。

## 6 選考方法

- 各プログラム責任者等が選考面接を行い、各プログラム研修管理委員会の審議を経て合否が判定されます。
- 選考結果は、日本専門医機構が運用する専攻医登録システムを通じて本人宛に通知されます。

## 7 その他

専門研修プログラムの募集に当たっては、日本専門医機構が運用する専攻医登録に即して、適宜適切に対応いたします。

## 8 処遇

当院で非常勤の専攻医として勤務する場合(参考:令和6年度)

- 身分: 専攻医
  - 職務: 病院における診療業務の他に、臨床研修医の指導補助
  - 勤務日数: 月17日以内
  - 給与: 日額15,400円、通勤手当、超過勤務手当、宿日直手当、期末手当及び勤勉手当、その他各種業務手当
  - 有給休暇: 10日間(1年目)
  - 各種保険
- ※連携施設での身分、給与等は、各施設が定めるところによります

### 【ご案内】

#### ■ 病院見学について

県外臨床研修病院に勤務している臨床研修医を対象として、旅費の助成を行っています。



#### ◎ 見学の申込み

<https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/visit/>

#### ■ 手続き書類のダウンロードについて

福島県立医科大学附属病院の臨床研修・専門医研修ホームページからダウンロード可能です。



#### ◎ 願書・履歴書のダウンロード

[https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/training\\_program/system/](https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/training_program/system/)

### 【提出先・お問い合わせ先】

## 公立大学法人福島県立医科大学附属病院 臨床医学教育研修センター

事務担当 石田 英祐

〒960-1295 福島市光が丘1番地

Tel.024-547-1047(直通) Fax.024-547-1715

E-mail: [cmecd@fmu.ac.jp](mailto:cmecd@fmu.ac.jp)